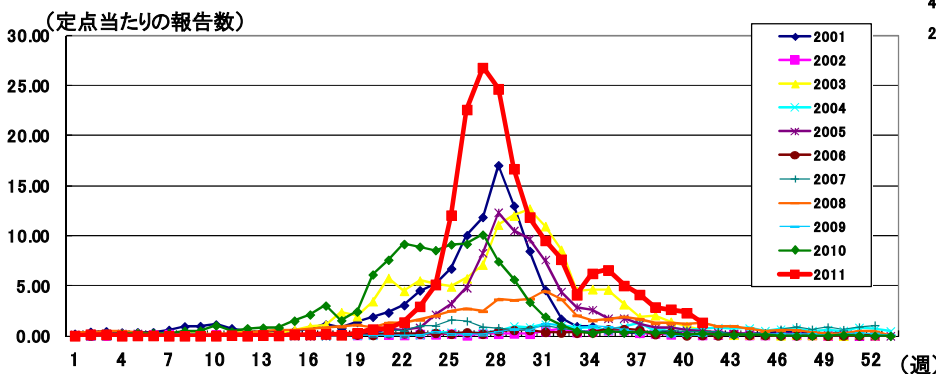


# 手足口病の流行状況(4)

※山口県の手足口病の定点あたりの報告数は第24週(6月中旬)に警報レベルの開始基準値5以上となり、第27週(7月上旬)をピークに減少し、今週(第41週)終息基準値の2を下回りました。

## 1. 各年の発生動向

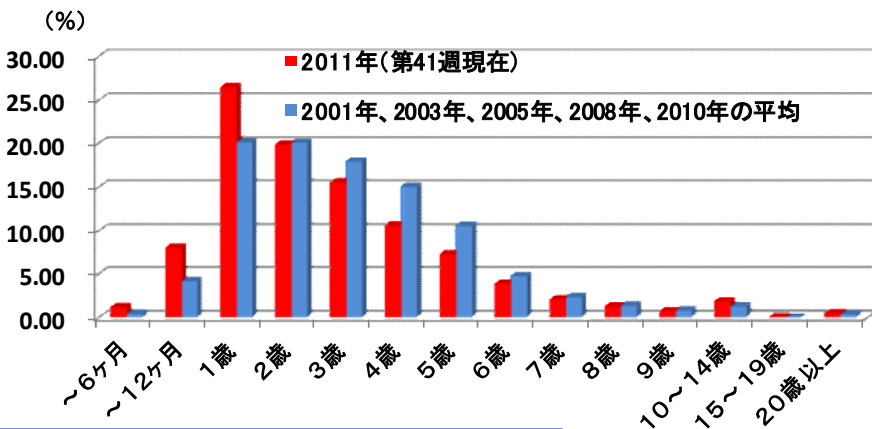
2001～2011年(第41週現在)までの各シーズンの発生動向を示したグラフです。今期は第24週に定点あたりの報告数が5以上となり、第27週に最多報告数となりました。その後6週連続して減少し、一旦やや増加したのちに、再び6週続けて減少して第41週に警報レベルの終息基準値を下回りました。過去10年間と比較してみると、ピーク週の定点あたりの報告数は26.77で最大、警報レベルの継続期間は17週間と最長でした。



	2001	2003	2005	2010	2011
警報レベル開始週	第24週	第21週	第27週	第20週	第24週
ピーク週	第28週	第30週	第28週	第27週	第27週
警報レベル終息週	第32週	第37週	第35週	第31週	第41週
警報レベル継続期間	8週間	16週間	8週間	11週間	17週間

## 3. 年齢構成

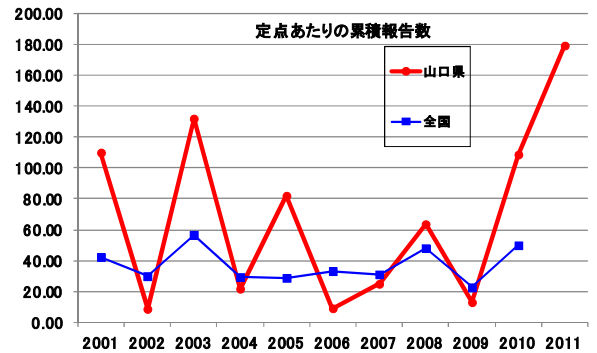
下のグラフは、2011年(第41週現在)と、定点あたりの累積報告数が多い2001年、2003年、2005年、2008年、2010年の平均との年齢構成を比較したものです。今年は例年に比べ1歳以下の報告数が多くみられました。



## 5. 全国の状況

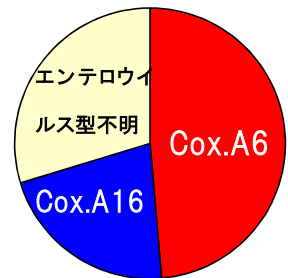
全国的にも過去10年間と比較して最多報告数となりました。原因病原体についてもコクサッキーウイルスA6型が最も多く報告されており、コクサッキーウイルスA16型が2番目に多くみられました。詳細は国立感染症研究所感染症情報センターのページをご覧ください。参考URL: <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

## 2. 定点あたりの累積報告数の各年比較



上のグラフは、定点あたりの累積報告数を各年で比較したものです。今年は過去10年間で最多となりました。

## 4. 病原体検出情報



上のグラフは山口県環境保健センターで検出された2011年の手足口病の原因病原体です。今年は流行開始当初は主にコクサッキーウイルスA6型が多く検出されましたが、6月下旬以降の検体からはコクサッキーウイルスA6型に加えA16型も検出されました。例年の手足口病の原因病原体としてはコクサッキーウイルスA16型やエンテロウイルス71型が多く報告され、山口県環境保健センターの検査でも、昨年は主にエンテロウイルス71型が検出されています。

臨床像も、四肢以外に陰部、臀部などに発疹がみられる事例が多く、例年とは異なりました。